

重点施策		文化財の保護・活用の推進		評価実施者		所 属	社会教育課
				職・氏名		課長 竹谷和徳	

重点施策の概要	目 的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組みなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組みます。					
	今年度の主要事業	①日本化学会「日本化学遺産」への北海道人造石油株式会社滝川工場認定に対する資料提供					

事業の目標と実績	区 分		単位	H22	H23	H24	特記事項	
	1	指定文化財登録数	目標 実績	件		9 7		9 7
	2	華月館・屯田兵屋来館者延人数	目標 実績	人	1,009 969	1,009 721		1,009 1,441
	3	太郎吉蔵来館者数	目標 実績	人	4,012	6,598		9,440
	4		目標 実績					
			目標 実績					

事業の分析効果の検証	①滝川の戦中、戦後の歴史で重要な役割を果たした北海道人造石油株式会社滝川工場資料を、公益社団法人日本化学会「化学遺産」の認定にむけ資料提供等を行った結果、平成25年3月に北海道にある資料、そして自治体で所有する資料としては初めて認定された。 ②化学遺産の認定により、市文化財の指定に向けて動き始めるとともに、平成25年度には、人石をテーマとした特別展の開催や、広報たきかわでの特集紹介などが予定されるなど、市民に貴重な郷土資料として再認識してもらう効果があった。 ③人石は軍需産業の性格から、全容が明らかになっていないこともあり、「化学遺産」認定をきっかけに、関連資料や情報の提供が期待される。 ④華月館は、三浦華園が独自にパンフレットを作成し、PRをしたことが入館者増につながった。
課題	①民間が所有する建物を今後文化財指定を検討するうえで、所有者の了承を得るための条件整理(補修の考え方など)を行い、市内に残る価値のある建物の保存を進める。 ②郷土史を語る人材が高齢化し、文化財と市民を結ぶ「語り部」の育成が必要である。整備された文化財と育成した語り部が、教育活動に生かされるようハードとソフトの整備を組み立てていく。

評価	A 評価の視点1 期待どおりの効果があったか 北海道にある資料、そして自治体で所有する資料としては初めて認定されたこともあり、注目度かなり高く期待どおりの効果があった。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も郷土資料に光をあて、その価値を評価する取り組みを進めていく。
----	--

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する

B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある

C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。

D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	人石資料の市指定文化財の決定にむけて作業を進めていくとともに、今後も埋もれた「まちの財産」に光をあて、文化財として保存・普及していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	郷土館の有効な利用を。平日に閉館しているのはどうかと思う。
---------------	-------------------------------